

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2890200187 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 三桂会 | | |
| 事業所名 | グループホームまんでん六甲の丘 | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市灘区篠原伯母野山町3丁目14番2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年1月7日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(GS神戸) | | |
| 所在地 | 兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年2月2日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年12月にオープンした新しい認知症対応型共同生活介護(グループホーム)です。六甲山脈の中腹、標高250m程の立地にあり、南に目を向けると、晴れて空気の澄んでいる日には大阪湾を一望出来る素晴らしいロケーションの中で、ご入居者は一日一日ゆったりと過ごしておられます。夏には芦屋の花火大会や、遠く淀川花火大会の花火も見える閑静な住宅街にあります。

ホームの理念「一人ひとりに寄り添った丁寧なケア。居心地のいいホームづくり」を掲げ、ご入居者の出来る事に注目してケアを実践しています。

また、地域における役割として、生活保護世帯の受け入れも積極的に行っており、2023年1月時点で、6名の方が入居されています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

六甲山麓の高台に立地し、大阪湾と市街地の見晴らしが良い。直近に同法人の特別養護老人ホームがある。コロナ禍中の開設で地域との交流が難しい中、他事業所や地域包括支援センターとは書面等により情報・意見を交換したり入居相談の紹介を受けるなど、日常的に連携を取っている。家族にも隔月で活動報告を送り多くのコメントをもらっている。職員の入れ替わりがあってもチームワークを維持して円滑に業務が進むよう、スタッフとのコミュニケーションを図って有益な意見は採り入れる運営を進めている。コロナ中でも面会では中止せず、予約制・ビニル越し等の制限付きで続けている。状況を見極めて、家族の希望による墓参りや自宅でのおせち料理体験も実現した。遠方への外出は出来ないが日々の散歩を励行しており、時にはお花見ドライブへも出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

グループホームまんでん六甲の丘

評価機関:CS神戸

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 開設時に事業所独自の理念を作成しました。その半年後に事業所のスローガン「敬意、安心、貢献」をもとに日々の業務に取り組んでおります。 | 「自分の親に…」で始まる法人の理念3箇条をパンフレットに掲げ、開設時に作った事業所の理念「一人ひとりに寄り添った丁寧なケア。居心地のいいホームづくり」と半年後に作ったスローガン「敬意・安心・貢献」を共に事業所の壁に貼り、共有している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍ではありますが、ご入居者散歩中に近隣住民の方々との挨拶などの交流をしています。 | 住民とは出会った時に挨拶を交わしており、自治会には会長交代人事が落ち着いてから加入する予定である。コロナ禍の最中の開設だったので、直接的な地域交流活動はまだ出来ていない。感染が収束したら地域との付合いを広げたいと考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 引き続き、新型コロナウイルスの感染状況、感染対策などの各条件が落ち着けば地域に向けた発信(勉強会など)が出来ればと考えています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在も書面で事前資料を送付し、その資料に対してのご意見や、ご要望を返信頂く形を取っています。 | 運営推進会議は住民代表以外の必要な出席メンバーが揃っているが、感染防止の為に対面開催ではなく書面でのやりとりとなっている。全家族とメンバーに事業所の活動報告を送り、書面で様々な意見やコメントを返してもらって議事録にまとめている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 生活支援課様と生活保護世帯の方の受け入れについて必要に応じて、相談しています。 | 市役所とは必要な時に電話等で連絡を取り、区役所とは生活保護を受給している入居者の手続等で連絡や訪問をしている。地域包括支援センターとは運営推進会議メンバーとしてのやりとりの他、入居相談の紹介等の情報交換を含め、様々な連携をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 過去に離脱事故が発生しておりその際の遭難のリスクが高いため、玄関等の施錠は常時行っています。それ以外のユニット内はプライベート空間以外は自由に出入り出来るようになっています。 | 研修と身体拘束適正化委員会により、拘束のないケアの徹底を図っている。玄関とユニットのドアは安全の為閉めているが、希望する方には職員が付添って出る。家族の了解を得てセンサーマットを3人の方に使っているが、定期的に必要性を見直している。 | |

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 新規入職時と、年に2回、高齢者虐待防止研修を行っています。今年度も2月と3月に各1時間ずつの計2時間研修を行う予定です。 | 動画による受講と講義形式での研修を年に2回行い、虐待防止に努めている。不適切な言動を見かけたり報告を受けた場合は、個別に指導している。必要を感じた時には個人面談を適宜実施して、職員のストレスと心の健康にも配慮している。 | |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者と計画作成担当者については、必要に応じて成年後見制度について情報共有し、入居相談や見学の際、ご案内できるようにしています。 | 現在は成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用している入居者は居ない。管理者と計画作成担当者は権利擁護に関する制度について相談があれば対応できるよう、情報共有し資料も準備している。今年度は権利擁護をテーマとする職員研修も実施した。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約には約3時間程かけて、実際にあった事例などを交えながら、行っています。適時、質問などあればお答えし不安の解消に当たっています。 | 契約時には文書の重要な所は読み上げ2～3時間かけて説明をしている。病院受診には家族等の付き添いが必須であることや、最期までみてもらえるかとの質問には常時医療措置が必要になれば難しいこと等を説明し、納得を頂いた上で契約をしている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や電話でお話を伺うようにしています。また、運営推進会議の書面でも伺う機会を設けています。 | 家族の意見・要望は面会等で来所した時や電話のやりとり及び運営推進会議の書面などで伺っている。今年は書面で外出行事のクエストや坂道を歩けない方の室内での運動の要望があった。ご希望に応じて家族との墓参りや外出をして頂いた方もある。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 個別面談や雑談を行い意見や提案などあげてもらい、より良い施設運営が出来るよう取り組んでいます。 | 職員の意見はミーティングや面談、業務中の話合いの中で関連に出されている。今年度はスタッフの入れ替わりが頻繁にあったことから、業務の役割分担を明確に成文化して新規入職者にも分りやすくして欲しいという要望が出され、管理者が対応した。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 残業が発生しない様、1日の業務スケジュールを作成し、それに基づいて業務分担を行い日々の業務にあたっています。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月、施設内で研修を行っています。また、カンファレンスを通してケアの成功体験を共有することで事業所のレベルアップを図っています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 引き続き新型コロナウイルスの感染が続いており、感染予防の観点から相互交流は実現できてはいません。また、ネット環境の整備も出来ていない為、オンラインによる交流も実現出来ていません。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 感情をご入居者と合わせることで、感情面でのつながりが出来る様に取り組んでいます。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご入居前からご家族や担当ケアマネと情報共有を行っています。また、入居後の様子など具体的に説明することで信頼関係を築いています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメントやご家族との会話から必要な情報を集約し援助を行っています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事をしながら雑談やレクリエーションを通じて関係性を深めています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 感染対策をしながらのこまめな面会の声掛けや、受診対応や帰宅願望への対応など家族様に担って頂いています。 | | |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 引き続き新型コロナウイルスの感染状況により、感染対策をしながらの面会を実施しています。 | コロナ禍中も面会には中止せず、予約制で玄関でのビニル越し又はユニット入口のガラス窓越し、1回10分間・2人迄等々の制限付きで実施し続けている。法人のインスタグラムには入居者の生活の様子を撮影した写真を掲載している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 面倒見の良い、お世話が好きなご入居者を中心にお互いの関わり合いが出来ている方もいます。そうでない方も会話に加わり、場に参加することで精神的な安らぎが得られていると思います。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 引き続き、解約時(退去時)に何かあればいつでもご相談くださいとお声掛けは行っていますが、今の具体的なご相談を頂いた事はありません。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃の様子を観察しながらニーズの確認を行っています。 | 入居前の生活習慣やリズムの維持、継続が出来るように、生活に無理をしないよう、機能的に悪くならないように考えている。契約時に家族、本人から思いや意向を聞き取り確認している。入居後は日々様子、表情を観察して汲み取っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面談時やアセスメントのタイミングでご本人やご家族にヒアリングしています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録や業務日誌に、特記事項や行ったことなどを記録し把握するよう努めています。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画更新時は、ご家族、必要に応じて訪問看護師や主治医からの情報提供と介護職員からの情報を総合的に集約した上で、作成をしています。 | 職員から24時間の生活の様子、課題、意見を聞き、主治医、訪問看護師からの助言、情報、家族からの思い、希望を総合的に介護計画作成者、管理者が集約して定期的に作成している。暮らしぶりに変化が出てきた場合にはその都度作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録に記入し、特記事項は業務日誌に記載しています。内容によっては申し送りをを行い情報の共有を行っています。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|---|--|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 希望ある方へは訪問鍼灸の利用を提供しています。 | | |
| 29 | | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 外部との交流が出来なくなっているため地域資源を活かしているとは言えません。 | | |
| 30 | (14) | | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご希望ある方は、入居前のかかりつけ医を併用していただいています。 | 希望があれば、入居前のかかりつけ医に受診出来るように支援している。協力医は月に2回往診がある。訪問看護師は月に2回の訪問、訪問歯科は毎週往診がある。緊急時には職員が同行し、定期的受診は家族にお願いをしている。鍼灸師も来ている。 | |
| 31 | | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月2回の訪問看護のみならず、24時間のオンコール体制での相談や対応を行って下さっています。 | | |
| 32 | (15) | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 定期的に入院先と情報共有しながら円滑な退院援助を行っています。 | 入院になると生活の状況、必要事項をFAXしている。定期的な病院からの情報は家族、管理者、ケアマネジャーが共有している。早期の退院が出来てスムーズに元の生活に戻れるように病院相談員と常に情報交換をしている。 | |
| 33 | (16) | | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期の方針については契約時にお伝えしています。また、その時が近づいているのであれば、主治医よりご本人、ご家族に丁寧に説明をしています。 | 入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」「延命処置に対する意思表示書」で丁寧に説明し、同意をもらっている。出来る事、出来ない事、緊急時の対応を理解してもらっている。容態変化がある時は協力医から家族へ説明して、家族が希望する事を援助している。 | |
| 34 | | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルをユニット内に配置するとともに研修を開催することで理解を深めています。 | | |

| 自己 | 者第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 施設内での避難訓練は年に2回夜間、日中想定で行っています。 | 消防訓練は昼間、夜間の想定で年2回通報、避難、消火の訓練をしている。防災訓練では風水害地震を想定し9月に行っている。非常食、感染症に係る衛生材料は最寄駅近くの法人本部事務所に3日分程度備蓄している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | マスクの上からでも、わかりやすい声掛けや、表情などにも工夫しながらコミュニケーションをとっています。 | 「倫理及び法令順守」「権利擁護」「プライバシー保護」の研修を年に各1回している。社会人として訓練の少ない職員には管理者が直接教えている。外国人の職員には細かく噛み砕き説明をして、尊重とプライバシー保護に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご入居者のご希望に応じてレクリエーションの内容を変えています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 塗り絵やパズル、歌唱などご入居者の好みのレクリエーションを提供しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 髭剃りや爪切りなど日常的な整容以外にも、女性ご入居者へは、ネイルなどちょっとしたお化粧品のお手伝いも行っています。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事前後のテーブル拭きや、食後のお盆拭き、食器洗いなど出来る方に出来る事を無理のない範囲で行っていただいています。 | 入居者は洗い物、食卓拭き等無理の無いお手伝いをしている。忘年会には冷凍食品も使いクリスマスメニューを楽しんだ。午前中に家族からの差し入れの品、お茶を召し上がっている。常食にはゼリー食、おかゆも用意して、口から食べる喜びを大切にしている。 | 不定期に行事食をしています。コロナ禍、大変と思いますが、人手が確保出来たらインスタントな食材や店屋物等も活用するなどして食の楽しみを増やす事を期待します。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分摂取量は記録しながら必要に応じて水分摂取を促しています。食事出来る限りご自身の残存機能を活用していただけるような声掛けや介助を行っています。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 希望者には毎週、訪問歯科医による口腔ケアを行っております。 | | |
| 43 | (20) | | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンをチェック表をもとに把握するよう努めています。 | トイレでの排泄を基本としている。入居者全員の排泄パターンを排泄表により把握し、さりげなく誘導している。仕草、表情からも汲み取って排泄支援をしている。水分量を工夫して体操をしたりして、自然な排泄を促している。 | |
| 44 | | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々の水分摂取量を確認し、少ないご入居者には好みの飲み物を提供し対応しています。日中に体操や散歩などの活動を取り入れ自然排便を促しています。 | | |
| 45 | (21) | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴スケジュールは決まっていますが、ご本人のご様子やご希望に応じ柔軟に変更、修正をしています。(職員体制にもよります) | 希望を聞き、様子を見ながら午前2人、午後1人の入浴を楽しんでいる。拒む方には、日時を変更したり、言葉を工夫してその原因を探るようにして入浴に誘っている。同性介助を希望する場合は対応している。季節湯には菖蒲湯、ゆず湯をしている。 | |
| 46 | | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自室は自由に使っていただいております。温度管理しながらより良い空間提供を行っています。 | | |
| 47 | | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬介助は職員、ご入居者に名前、日付などの確認をWチェックしています。状態に変化があれば訪問看護師に相談しています。 | | |
| 48 | | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご家族より差し入れとして個々の好きなお菓子頂いており、10時のティータイムに提供しています。 | | |

| 自己 | 者第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日々の散歩は行っていますが、コロナ禍の為、遠出は自粛中です。今後は季節を感じていただけるような外出支援や買い物などご家族を巻き込みながら支援していきたいと考えております。 | 日々建物前の傾斜のある道路、住宅地の平坦な道で散歩をしたり、桜の咲く季節には名所の公園等へドライブをする。行事での外出、買い物は自粛しているが、お墓参り、自宅への訪問、クリスマスでの帰宅等は実施して気分転換を図っている。 | 家族アンケートの自由回答で「敷地内にお花を植えに行きたい」とありました。申し出があればお言葉に甘えて植えてもらい、手軽に外気にあたる機会を増やしてはいかがでしょうか。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 近隣に店舗等もない事から、必要な物品の手配はご家族に依頼したり施設が購入したりしています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話の持ち込みは、ご家族のご要望に応じ柔軟に対応しています。 | | |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアに季節感のある作品を展示したり、トイレもわかりやすいように表示するなどの工夫をしています。自室でご家族と通話されている方もいます。 | 広いリビングの壁には季節感のある大きなサイズの貼り絵が題材を変えて複数貼ってある。空気清浄機を設置して、窓を開け、エアコン温度を上げて室内環境を保持している。掃除、消毒もしている。ソファ、テーブルがゆったりと配置され、快適な空間である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファの配置やテーブルの配置を状況に応じて変更しています。 | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご入居の際は、なじみのある品の持ち込みをお願いしています。昔のアルバムやお好きな人形など持ち込まれています。 | エアコン、天井までの高さの二段のクローゼット、ベッド、カーテンが設備されている。馴染みの整理ダンス、CDレコーダー、思い出の品が持ち込まれている。工夫された居室入口の表札、トイレ案内等、居心地良く過ごせるように配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの表記や、表札など、自分で出来る事が維持できるよう取り組んでいます。 | | |